

船舶インシデント調査報告書

平成24年8月2日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

インシデント種類	運航阻害
発生日時	平成24年5月7日（月） 09時30分ごろ
発生場所	長崎県佐世保市 ^{はいき} 早岐瀬戸 佐世保市所在の針尾港北防波堤灯台から真方位020° 7,600m付近 （概位 北緯33° 07.0′ 東経129° 47.7′）
インシデント調査の経過	平成24年5月8日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊覧船 ガブリエラ、12トン 235-28046長崎、ハウステンボス株式会社 10.42m (Lr) × 3.70m × 1.00m、FRP ディーゼル機関2基、67.66kW（合計）、平成4年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 59歳 一級小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成17年12月8日 免許証交付日 平成23年6月24日 （平成28年8月17日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	なし
インシデントの経過	<p>本船は、船長ほか5人が乗り組み、‘はがきで当選した招待客’（以下「乗客」という。）8人を乗せ、船首及び船尾共に約1.0mの等喫水で早岐瀬戸の中間地点で開催の早岐茶市（以下「イベント」という。）会場からハウステンボス（以下「HTB」という。）に向けて同瀬戸を南進した。</p> <p>本船は、平成24年5月7日09時30分ごろ左舷主機の冷却水高温警報が点灯し、吹鳴した。</p> <p>船長は、両舷主機及び補機の全てのこし器及び冷却水ポンプ（以下「ポンプ」という。）が泥等で閉塞しているおそれがあったことから、錨を入れたのち、両舷主機及び補機を停止した。</p> <p>本船は、この時点で乗客のうち3人がイベント会場に戻ることを希望したので、連絡により来援した船に移乗させたが、他の乗客5人は機関を点検したのち、HTBに送ることになった。</p> <p>船長は、各機関のこし器及びポンプを開放し、吸い込んでいた泥や砂を取り除き、復旧したのち、各部を点検して異常がなかったため、10時00分ごろ本船の運航を再開した。</p> <p>本船は、本インシデント時、乗組員及び乗客の人数分の救命胴衣を搭載していたが、全員が着用していなかった。</p>

気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南南西、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：波高 約0.3m、潮汐 上げ潮の末期</p>	
その他の事項	<p>イベント開催者は、本船を船舶所有者からイベント期間中無償で借用したものであった。</p> <p>イベント開催者は、延べ9日間のイベント期間中、ボランティアで参加した者（延べ70人）を乗組員とし、本船を運航する予定であった。</p> <p>早岐瀬戸は、幅が約100～200mであり、水深が約2～4mで蛇行しており、両岸には底質が泥の浅瀬が存在している。</p> <p>イベント開催者は、イベント開催前に2回、船長予定者の全員を所有する小型船に乗船させ、早岐瀬戸に習熟させるため、同瀬戸の航行経験が豊富なガイドに同乗してもらい、その指導を受けながら、イベント会場とHTB間を往復する試験運航を実施し、航行に支障がないことを確認していた。</p> <p>船長は、本事故まで早岐瀬戸の航行経験がなかったものの、2回目の試験運航において、イベント会場からHTBまでの行程をガイドの指導を受けながら操船し、両岸に浅瀬があるので早岐瀬戸の中央を航行することなどを認識した。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、早岐瀬戸を南進中、左寄りを航行したことから、左舷主機が泥を吸い込んでこし器及びポンプが閉塞し、運航を停止したことにより、運航が阻害されたものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、早岐瀬戸を南進中、左寄りを航行したため、機関が泥を吸い込み、こし器及びポンプが閉塞し、運航を停止したことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早岐瀬戸に十分習熟した船長に操船を依頼すること。 ・海上衝突予防法第9条の規定に留意しながら早岐瀬戸の中央付近を航行することが望ましい。 	